

セミナー通信

V o l . 294

西村セミナールーム

主宰 西村 恵子

2018 年度卒塾生 自分に負けない

2018 年度卒塾生、その子が入塾してきたのは中 2 の夏の終わりだった。当塾ではこの時期の入塾が基本的に受け入れのタイムリミットと思っている。ここより遅くなると入試までに十分な力をつけることはかなり難しい。そんなぎりぎりの時期に入塾してきた彼は、ゆったりとした話し方をするひょうひょうとした男の子だった。特に強い覚悟でやって来たというようにも見えない。ただ、入塾テスト後の面談では「頑張ります。」と、淡々とした口調ではあったが約束した。内申は 33、学年順位は 230 人中の 80 番くらいからのスタートだった。

入塾後、「頑張ります」が口先だけではないことがすぐにわかった。出された宿題は必ずやってくる。返されたものはすぐに直して再提出する。わからなければその都度質問して解決しておく。そして、パートテストはきちんと合格し続ける。実は彼は卒塾までパートテストは全て合格したのである。春の単語コンクールは 1 枚失敗してしまったが、平常のパートはやり遂げ、きちんと約束を果たせるよう踏ん張った。表情や口調からは分らない、芯の強さと誠実さを入塾後 1、2 ヶ月ですぐに見せてくれた彼だったが、本当に驚かされたのはここからだった。

成績がどんどん上がっていく！80 番台だった学年順位は、テストをやるたびに 50 番台、30 番台、20 番台と、おもしろいように上がっていった。そんなにひらめきの良いタイプではなく、論理的思考力も人以上に優れているわけではない。国語力などむしろ無さ過ぎて受験勉強中もずっと格闘していた彼である。人よりもはるかに優れていたもの、それは“自分に負けない心”だった。部活はバレー部。激しい練習のあと疲れた身体で家に帰る。ゆっくりゲームをしたりテレビを見たい気持ちや睡魔が襲ってくる。しかしそんな時でも歯をくいしばってやるべきことをきちんと片付けた。自分の中にあるさぼりたい気持ちが彼にとっては一番の敵だったのだが、彼はそれに負けなかったのだ。「自分に負けたくないじゃん・・・。」彼はつぶやいていた。

周りの友達や自分をも驚かせる結果が 2 年の学年末に待っていた。いきなりの学年 5 位。驚きとともに、それまでやってきたことに対する確信と自分への自信が持て、一層やる気に拍車がかかった。まだ内申は 35 だったが、本気で名古屋市内の高校を目指そうと決意する。

「僕は先生がやれと言ったことは 100%こなし、それ以上のことをやりました。」一彼の言葉である。その後の 1 年間も頑張り通し、内申も 44 まで上げて、見事第一志望の瑞陵高校に合格を果たした。これから先、どんなに困難な事が目の前に立ち塞がろうと、きっと彼は負けずに超えて行ける。自分でつかみ取った自分への自信が一生背中を後押ししてくれるだろう！